

# J A グループ宮城 災害復興ニュース ( 総 合 版 )

第 8 7 号

【平成 28 年 4 月 4 日 ( 月 ) 発行】  
発行：J A グループ宮城災害復興本部  
編集：J A 宮城中央会  
〒980-0011 仙台市青葉区  
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F  
電話番号：022-264-8207  
FAX 番号：022-216-4466

## 《目次》

1. 沿岸 J A の農産物など販売。仙台市の商店街で「復興・感謝！ マルシェ」
2. 復興のモデルに。第 45 回日本農業賞宮城県表彰式・祝賀会
3. 東京で開かれた「復興応援まるしえ」で「仙台いちご」など販売
4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第 55 次請求

### 1. 沿岸 J A の農産物など販売。仙台市の商店街で「復興・感謝！ マルシェ」

東日本大震災から丸 5 年を迎えた 3 月 31 日、J A グループ宮城「県産県消」推進協議会は、「みのりみのるマルシェ in 仙台～復興・感謝！マルシェ」を仙台市中心部の商店街で開きました。

復旧・復興支援に感謝すると共に、震災を風化させないために企画したもので、被災した沿岸部 4 J A の農産物や 6 次産業化商品などを、試食を交えて販売しました。

震災後に発足した農業生産法人が作ったネギやトマト、営農を再開した農家が栽培したキュウリやイチゴなどが並び、J A 職員らが、産地をアピールしながら販売しました。また、支援に感謝の思いを込めて、通行人に県産豚汁やカレーなどを振る舞いました。



被災地の復興をアピールしながら販売しました

### 2. 復興のモデルに。第 45 回日本農業賞宮城県表彰式・祝賀会

J A 宮城中央会と NHK 仙台放送局は 3 月 30 日、第 45 回日本農業賞の宮城県表彰式・祝賀会を仙台市内で開きました。宮城県代表の 2 団体、個別経営の部で大郷町の(有)薬師農産、集団経営の部で J A みやぎ亘理いちご部会を表彰。併せて、全国審査で優秀賞を受賞した J A みやぎ亘理いちご部会の栄誉をたたえました。

(有)薬師農産は、「地域を地域で守る」を理念に、平成 18 年に法人化。稲作を中心とした土地利用型農業で、堅実な黒字経営を実践しています。

同社の高橋壽一会長は「これからも地域を守り、宮城の農業を守っていききたい」と感謝しました。

J Aみやぎ亘理いちご部会は、大震災を乗り越え「東北一のいちご産地」復活を果たすため、それまで各地区にあった「いちご生産連絡協議会」を発展的に解散させて誕生。「仙



台薬師農産、J Aみやぎ亘理いちご部会などの関係者

は「栽培面積は震災前の約6割、生産量は約7割まで回復した。ご支援の賜物であり、感謝の気持ちを忘れずに、東北一のイチゴ産地を再生していきたい」と語りました。

式典には、行政・J A関係者など約30人が参加。中央会の石川壽一会長は、「2団体の取り組みは本県農業のトップランナーにふさわしく、震災復興から営農再開に向けて、大きな希望と勇気を与えて頂いている」と、栄誉をたたえました。

### 3. 東京で開かれた「復興応援まるしえ」で「仙台いちご」など販売

J A全中は3月7日、岩手、宮城、福島  
の3県J Aグループと共催で「東日本大震災からの復興応援まるしえ」を、東京・大手町のJ Aビルにある農業・農村ギャラリーで開きました。



3県が合同で農産物などを販売しました

J Aグループ宮城は、J Aみやぎ亘理のイチゴ「もういっこ」、J A名取岩沼のセリ、J A仙台の「曲がりねぎ」、大豆を使った6次化商品「ソイパスタ」などを販売しました。J A全中の比嘉政浩専務は「復興は道半ば。東京で被災地の農産物を購入できる場を設け、復興に貢献していきたい」と語り

ました。イベントは隣接する経団連ビルで開催された被災地応援イベントと連携して開かれ、気仙沼市や塩竈市の水産業者も出展し、水産加工品などを販売しました。

### 4. 原発事故損害賠償対策宮城県協議会が東京電力に第54次請求

J Aグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は3月31日、第55次請求として東電に5,581万円を請求しました。

内訳は、牧草の利用自粛等にかかわる損害が4,349万円、牧草地の除染にかかわる損害が1,190万円、廃用牛の飼育直し等にかかわる損害が43万円となっています。